東海テレビかわら版

2026年『日本民間放送連盟賞』
2作品が「優秀賞」獲得！

【青少年向け番組部門　優秀賞】
スイッチ！サタデー特別編「とよねの花」

【番組部門（テレビバラエティ）　優秀賞】
「さよならビデオ PART2」

「日本民間放送連盟賞」は、質の高い番組がより多く制作・放送されることを促すとともに、CM制作や技術開発の質的向上と、放送による社会貢献活動等のより一層の発展を図ることを目的に、民放連が1953年に創設した賞である。
今年の日本民間放送連盟賞では、東海テレビが制作したスイッチ！サタデー特別編「とよねの花」が青少年向け番組部門で、「さよならビデオ PART2」が番組部門（テレビバラエティ）でそれぞれ「優秀賞」を受賞した。
尚、受賞したそれぞれの作品内容は下記の通りとなります。

【青少年向け番組部門　優秀賞】
スイッチ！サタデー特別編「とよねの花」

＜作品概要＞

たった900人の小さな村。愛知県北東部の奥三河地方に位置する「豊根村」は県内で一番小さな村です。村の象徴は、700年以上続くと言われる「花祭」。舞庭（まいど）と呼ばれる土間の中心で湯を沸かして、五穀豊穣を祈り、夜を徹して舞が続きます。しかし、その伝統文化も人口減少により、存続の危機にさらされています。

そんな村にいた三人の若者。村で生まれ育った少女・伊藤日向子さん、都会から村に移住してきた青年・小早川武史さん、村の未来を思う大学生・清川羽菜さん。ふるさとは三人にとってどんな場所なのか、村を支える率直な想いに迫りました。

そして、この三人が村のために奮闘したもう一つの舞台が「愛知駅伝」でした。15大会連続最下位だった豊根村チームが挑んだ最下位脱出計画。そこに最強の助っ人として現れたのは幾度となく日本一に輝いている駅伝の名門・名城大学女子駅伝部でした。最強と最弱コンビの絆が奇跡を起こせるのか。村の襷と伝統を未来へ繋いでいこうとする三人の若者に密着しました。

＜スタッフ＞

プロデューサー：竹内一喜（東海テレビ放送）
ディレクター：神谷英政（東海テレビ放送）
編集：杉原悠人（エキスプレス）
効果：江崎健大（東海サウンド）

【番組部門（テレビバラエティ） 優秀賞】
「さよならビデオ PART2」
＜作品概要＞
ビデオテープの経年劣化、カビの発生、そして再生機の減少…。かつて多くの家庭で使っていたVHSなどのビデオは“永遠に見られなくなる”危機を迎えている。いわゆる2025年問題だ。「さよならビデオ」は、そんな絶滅寸前のビデオを救出し、眠っていた“思い出の時間”を再生するハートフルバラエティ。
舞台は岐阜県岐阜市。市民から寄せられたSOSを元に、再生機を背負ったスタッフが現場へ急行！依頼者の目の前でビデオを再生する。映し出されるのは、誰かの人生記録。再生ボタンを押した瞬間、忘れかけていた思い出が鮮やかによみがえる。
第2弾となった本作は「32年前の家族旅行を通して見えた父との関係」「亡き父が映る唯一のビデオ」「擦り切れるほど見返した家族キャンプ」などのビデオを再生した。さらに、55年前に撮影した8ミリフィルムも映写機を使って救出。“なぜ今、この映像を見たいのか”という持ち主の想いに踏み込み、ビデオを通しての人間ドラマを描き出した。スタジオには、VHSやビデオデッキに触れて育った霜降り明星 せいやさん、アイドルの鈴木愛理さんを迎え、ビデオ世代ならではの思い出を語り合いながらVTRを見ることで視聴者が懐かしさを感じられる空気感を演出。
番組では、再生した映像をデジタル化し“思い出データ”として保存。さらに、せいやさんが新たな名前を授けることで、ビデオを“失う”のではなく“未来へ残す”ものとして救出した。忘れていた記憶の再生と継承のドキュメント。あたなの家のビデオテープも、救出します！ハートフルバラエティ「さよならビデオ PART2」。

＜スタッフ＞
企画・プロデューサー：後藤慎介（東海テレビ放送）
総合演出：八津川真帆（8PEACE）

＜出演者＞
MC：霜降り明星 せいや
ゲスト：鈴木愛理
ナレーター：佐藤ミケーラ倭子

以上